

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：32608

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2021

課題番号：15K20937

研究課題名(和文) 多数決型民主主義国家における妥協の政治 20世紀前半のカナダにおける連邦政治過程

研究課題名(英文) The Politics of Compromise: Canadian Federal Politics of the Early to Mid-Twentieth Century

研究代表者

高野 麻衣子 (Takano, Maiko)

国立女子大学・国際学部・准教授

研究者番号：10745673

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、制度上は国内多数派の利益を優先するカナダの議会政治が、地域的にも民族的にも高度に多元的な社会といかに調和しうるのかを、「妥協の政治」という仮説を立てて検証した。検討対象は、産業化や都市化に伴って地域的な利益対立が顕在化した20世紀初頭から半ばにかけての平時の連邦政治であり、各政権期の主要争点に関する政策決定過程を検討することで、「妥協の政治」の実態を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、政府・政党次元で多数決型の民主主義として特徴づけられるカナダが、地域的・民族的に高度に多元的な利益をいかに調整してきたのかを明らかにした。それは、カナダ連邦政治を動かしてきた根本原理の解明のみならず、民主主義理論と多元的な社会の安定的な統治との関係について新たな見解を示した点で、比較政治学研究にも意義のある成果を生み出すことができたと思う。

研究成果の概要(英文)：This research has investigated how the Canadian form of democracy which is classified as majoritarian in executives-parties dimension fits with the society embracing highly diversified regional and ethnic interests. This study focuses on the federal politics of the early to mid-twentieth century when the political regionalisms became apparent in the Western and the Atlantic provinces. It demonstrates an accumulation of political compromise in the policy making process and concludes that the compromise contributed to the Canadian national unity.

研究分野：カナダ地域研究、比較政治学

キーワード：妥協 多数決型民主主義 カナダ連邦政治 少数派政権 包摂 国家統合

### 1. 研究開始当初の背景

カナダにおける政治制度と多元的な利益との関係は、利害調整において多数派の規模を最大化するベルギーやオランダといったヨーロッパ諸国の多極共存型民主主義の優位性を唱えたアレンド・レイプハルトの論考に反駁する形で検討されてきた。レイプハルトによれば、政府・政党次元で多数決型民主主義に分類されるカナダ連邦政治では、利益の多様性が反映されにくいという問題がある。一方、カナダ政治研究では、カナダの政党や内閣には、あらゆる地域や民族の利益を代表させようとする一種の「大連立」の性格が存在してきた点が指摘される(MacRae, 1974)。また、閣僚人事で地域や民族の利益を均衡させる、すなわち大臣が各利益を代表する役割を担ってきたことも明らかにされている(Bakvis, 1991)。

これらの研究は、多数決型民主主義という制度上の見かけの作用とは裏腹に、カナダ連邦政治では多様な利益の相対化と、利害調整機能が存在する点を指摘した点で、比較政治学研究に建設的な議論を提示したといえる。しかし、それには制度分析の域を超えておらず、実証研究が不足しているという問題がある。つまり、政党や内閣における諸利益の相対化が、実際の議会政治にも反映されているのかが問われてこなかった。また、政党や内閣において地域や民族を代表・均衡させるというアイデア自体が、そもそもどこに由来するのかという点も明らかではない。

そこで本研究は、上記二つの問題に対応すべく、以下の研究を行った。国内の産業化や都市化を背景に地域的な利害対立が顕在化した20世紀初頭から半ばまでの平時のカナダ連邦政治を対象に、各政権期の主要争点に関する政策決定過程を検討した。それにより、カナダ連邦政治のメカニズムを実態的に示すことができると考えた。その上で、民主主義理論と多元的な利益を内包する国家の安定的な統治との関係について、カナダ研究、比較政治学研究双方への貢献を目指した。

### 2. 研究の目的

本研究は、政府・政党次元で多数決型の民主主義として特徴づけられるカナダが、地域的にも民族的にも高度に多元化した利益をいかに調整してきたのかを検討した。その際、とりわけ地域的な利害対立が顕在化した20世紀初頭から半ばまでの連邦政治を対象に、主要な政策の決定過程に注目し、利害調整の実態を明らかにすることを目的とした。その上で、民主主義理論と多元的な利益を内包する国家の安定的な統治との関係について、既存の理論を批判的に検討し、補完することを目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究の作業仮説は、カナダの議会政治は、制度的には国内多数派の利益を優先するものであるが、政策決定過程において妥協的な利害調整がなされるがゆえ、地域的・民族的に多元的な社会と調和するというものである。この点を検証するため、以下の方法をもとに段階的に研究を進めた。

第一に、妥協的な利害調整の前提を明らかにするため、その歴史的背景を検討する必要があると考えた。政党と内閣で地域や民族の利害を代表させるというアイデア自体は、19世紀半ばのイギリス植民地時代に、今日のオンタリオとケベックにあたる地域の連合政府に見られた。また、19世紀半ばの連邦結成期には、政治的な決定に正当性を与えるために、対立する利益の間で、妥協を生み出す努力がなされていた点も歴史学研究で明らかにされている。したがって、まずはこの時代の政治家に関する文献を検討することにより、妥協の政治の前提を明らかにすることができると考えた。

第二に、政党と内閣で地域や民族の利害を均衡させるというアイデアが、実際に多数決型の民主主義という、制度上の見かけの作用とは異なる利害調整につながっているのかを検討する必要がある。そのため、連邦政治における実際の政策決定過程を明らかにすることで、作業仮説、すなわち妥協の政治を検証できると考えた。

本研究は、民主主義理論と多元的利益の調整について、現代政治の比較研究への貢献を念頭に置いているため、猟官制の廃止等、現代型の政治制度が整った20世紀のカナダ連邦政治を検討の対象とした。また、カナダにおいて地域主義が台頭し、それに伴って政治制度改革の声が挙がった1920年代の初頭から半ばは、既存の政治制度の有用性を測るものとして妥協の政治を検討することができる。

具体的な検討事例として、地域主義の挑戦を受けたW・L・M・キング自由党少数派政権(1921-1926)、彼に代わって党首を引き継いだフランス系かつアイルランド系のルイ・サンローラン自由党単独多数派政権(1948-1957)、その後、自由党から政権を奪還したジョン・ディーフェンベーカー進歩保守党単独多数派政権(1958-1963)を対象とした。というのも、少数派政権であれば必然的に妥協が求められるであろうが、単独多数派政権、また、党首、党首の民族的属性、そして政権政党が変わっても、同様に妥協の政治が展開されるのかどうかを検討することによって初めて、作業仮説の検証に説得力を持たせられると考えたためである。

#### 4. 研究成果

本研究では、20世紀初頭から半ばにかけての平時のカナダ連邦政治を対象に、制度的には国内多数派の利益を優先する議会政治と、地域的にも民族的にも高度に多元的な社会とがいかに調和しうるのかを検討した。その結果、以下の研究成果が得られた。

第一に、妥協の政治の前提、すなわち政党と内閣における地域的・民族的諸利益の代表と均衡というアイデアの歴史的背景を明らかにした。第二に、W・L・M・キング自由党少数派政権期、ルイ・サンローラン自由党単独多数派政権期、ジョン・ディーフェンベーカー進歩保守党単独多数派政権期の主要争点に関して、連邦議会で多数決による最終的な政策決定にいたる過程での、政治的イデオロギーを超えた妥協的な利害調整の実態を明らかにすることができた。加えて、各首相の国家統合観とその相違を説明した。

まず、政党と内閣において地域的・民族的諸利益を代表・均衡させるというアイデアが、イギリス植民地時代の1840年代から見られることを既存の歴史学研究の知見をもとに把握した。したがって、この時代の植民地政治を主導したイギリス系のロバート・ポールドウィンとフランス系のルイ＝イポリート・ラフォンテーヌの政治的思想を検討するのがよいと考え、両者の書簡、彼らの党派を代表する新聞(The Examiner)、および関連する二次史料を精査した。その結果、当時の文脈で「包摂(inclusion)」という考え方が浮かび上がった。ポールドウィンとラフォンテーヌには、当時の保守的な植民地政治を改革するために地域や民族の違いを超えて共闘する必要性があったとはいえ、そうしたプラグマティックな目的のみならず、政治理念としても包摂、すなわちイギリス系とフランス系の歩み寄り、および党派(後の政党)や内閣で異なる地域的・民族的諸利益を代表させることを共有していたという結論にいたった。

次に、この包摂の理念が、現代のカナダ連邦政治にいかん反映されているのかを、作業仮説として立てた妥協の政治との関係で検討した。まず、産業化と都市化とともに地域的な亀裂が顕在化したキング政権期の主要争点である関税、鉄道輸送料金、天然資源の管轄権をめぐる審議を対象に、自身がこれまで取り組んできた研究を整理・精緻化し、特定の地域を政治的に孤立させないための妥協が一貫して積み重ねられてきたことを説明した。ただし、キング政権は単独少数派政権であるため政権運営には一定の妥協が求められることに加えて、キング自身も異なる利益間の妥協を生み出すという点で、むしろ少数派政権を肯定的にとらえていた。したがって、彼の政権期に見られた妥協の政治が、同じく自由党政権で、より政権運営がしやすいと考えられる単独多数派政権でも見られるのかどうかを念頭に置き、続くサンローラン政権を検討した。

サンローラン政権期については、平衡交付金をめぐる議論を検討した。この政策案をめぐっては、財政力の強い州と弱い州との間の緊張関係の他に、第二次世界大戦期以降も連邦の権限が州の管轄範囲に及ぶことへのケベック州の強い反発という、別の次元の問題も生まれていた。そうした中、首相のサンローランは、政党の利益よりも、まずは国民全体にとっての「正しい選択(right thing)」かどうかを優先していたことが明らかになった。加えて、財政力の弱い地域を政治的に孤立させず保護することは、「国家統合(national unity)」にかかわる問題であることを一貫して強調した。ただし、このように国民全体にとっての正しい選択かどうかを政策決定の判断基準としつつ、彼は平衡交付金をめぐってケベック州の政治的孤立や、それに伴う他地域の分断を回避するために、政策的な妥協を最終的に生み出している。したがって、この点で妥協的な利害調整がなされたと考えることができる。また、19世紀半ば以来見られてきた「包摂」、すなわち、政権運営において異なる地域や民族とその利益を代表させ、妥協を生み出すという考え方も一致するという見解にいたった。

自由党について言えば、キング政権期には議会審議の過程で、そしてサンローラン政権期には、1956年の議会審議に先立つ1955年の4月と10月に開催された、連邦と州間での会議において、妥協的な利害調整、すなわち、特定の地域や民族の孤立を回避する方策が見られた。この点で、自由党内では首相の民族的出自や少数派政権・多数派政権の別を超えて、妥協の政治が展開されていたとの見方をとる。

次に、自由党から政権を奪還したディーフェンベーカー進歩保守党政権の検討では、政権政党が変わり、単独多数派政権であっても、政治的イデオロギーを超えた妥協の政治が見られるのかどうかを検討課題とした。農業政策や平衡交付金、社会保障政策をめぐる議論において、彼は西部や東部沿海地域の経済的ニーズを理解し、地域の利益を国家の利益と積極的に結び付けることにより、地域間の妥協にもとづく政策を推し進める手法をとっていた。また、彼はキングやサンローランと同様に、政党の役割はカナダを統合する(unite)ことであるとの見方をとっていた。ただし、ケベック州に対しては、例えば平衡交付金をめぐる議論において、連邦政府による交付金が不十分であれば、人々は州や自治体から十分な社会サービスを得ることができなくなるため、国への要求が高まり、むしろ連邦政府の権限を強化することになるという説得の仕方をとっていた。したがって、上記サンローランの手法とは異なるといえる。

ディーフェンベーカーによる国家統合の手法は、地域間の経済格差には配慮する一方で、地域や民族の違いを超えた、平等なカナダ人という前提が敷かれている。したがって、地域や、とりわけ民族の独自性を認識し、承認することに特徴づけられてきた自由党の手法とは対照的であった。そのため、政策決定の過程でとりわけ地域的な経済利害への配慮がなされる一方で、民族的な独自性への配慮は前提とされていないという点で、妥協の政治は限定的であるという見方にいたった。

上記の研究成果を踏まえると、政治的イデオロギーを超えた妥協的な利害調整は、政権の違い

を超えて確認することができたが、上述の通り、ディーフェンベーカー進歩保守党単独多数派政権では限定的であったといえる。それには、首相の社会的背景やリーダーシップによって形作られる国家統合観、すなわち、地域的・民族的多様性との向き合い方の違いが大きく影響していることが明らかになった。

本研究は 20 世紀初頭から半ばを対象としたものであるため、多数決型民主主義国家の妥協の政治という理解を、その後のカナダ連邦政治にも一般化できるのかどうか、できない場合にはその理由を明らかにする必要がある、今後の検討課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>高野麻衣子                                    | 4. 巻<br>第36号          |
| 2. 論文標題<br>総督の権限とカナダ連邦政治 - 1926年キング ピング事件と進歩党を中心にー | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>共立国際研究                                   | 6. 最初と最後の頁<br>115-130 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                     | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)             | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>高野麻衣子                        | 4. 巻<br>第35号          |
| 2. 論文標題<br>多党制下のカナダにおけるデュヴェルジェ的政党政治の希求 | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>共立国際研究                       | 6. 最初と最後の頁<br>203-219 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>高野麻衣子   | 4. 巻<br>第35号        |
| 2. 論文標題<br>マッケンジー・キング政権における統合の模索 - 1920年代初頭の鉄道輸送料金をめぐる議論を中心にー | 5. 発行年<br>2015年     |
| 3. 雑誌名<br>カナダ研究年報   | 6. 最初と最後の頁<br>39-54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                        | 国際共著<br>-           |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>高野麻衣子                                      | 4. 巻<br>第17号         |
| 2. 論文標題<br>多党化時代の政党カルテル - 1920年代カナダにおける進歩党の出現と二大政党 - | 5. 発行年<br>2015年      |
| 3. 雑誌名<br>日本比較政治学会年報                                 | 6. 最初と最後の頁<br>79-100 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                       | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)               | 国際共著<br>-            |

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>高野麻衣子                      |
| 2. 発表標題<br>多党制下カナダにおけるデュヴェルジェ的政党政治の希求 |
| 3. 学会等名<br>日本比較政治学会（第19回大会）           |
| 4. 発表年<br>2016年                       |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

| 6. 研究組織 | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号) | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|---------|---------------------------|-----------------------|----|
|---------|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|